

建築協定だより

第6号 平成5年10月12日
編集・発行 京都市建築協定連絡協議会
京都市中京区寺町通御池上る
上本能寺前町488番地
京都市住宅局建築指導部指導課内
☎ 075 (222) 3623

京都市建築協定連絡協議会 第4回総会が開催されました



総会次第

去る6月26日、平成5年度総会が、岡崎の京都市国際交流会館で開催されました。連絡協議会として4回目の総会です。

当日は夕立が降ったり止んだりという中、各地区の代表の方々と、オブザーバーとして参加された方々の55名が出席され、司会は別所副会長が、議長を藤田会長がそれぞれ務めて、午後2時に開会しました。

第1部は約1時間。「子供の目から見た町づくり」と題して、平安女学院短期大学の室崎助教授にご講演して頂きました。「自分達の町を、子供達と一緒に探検してみてもどうでしょうか。五感を生かして、今まで気付かなかった新しい発見をしていく。このような活動を通し、町づくりやコミュニケーションづくりを子供たちと一緒に楽しくやってみましょう。」と、日本や海外で実際に取組まれた事例をイラスト等で紹介されながら、熱心に語られる室崎助教授の話に、参加された皆さんも興味深げにうなづいておられました。第2部では昨年度の活動内容、決算及び監査報告を行い、その後今年度の活動方針案、予算案について審議を行い、全員の賛成で承認されました。

つづく第3部は意見交換の場となり、期間満了の際の更新についてなど、活発な意見が交わされました。

午後5時、無事終了し帰り際には、会場に展示された地区紹介パネルの前で談笑される姿も多く見られ、始終和やかな総会となりました。

会長あいさつ 西京区阪急桂南住宅地区 藤田吉三郎

平成5年度総会を京都市国際交流会館で開催しましたところ、公私ともご多忙の中、多数ご参加を賜り、心から感謝申し上げます。

近年私たちの住まいを取りまく環境は、著しく変貌して参りました。特に都市部の地下高騰に伴い建築物の高層化、過密化の進行は、住環境の悪化に拍車を掛けているのが現状でございます。

そんな中、今回の総会には、新たに建築協定として認可された3地区の参加を得て、当協議会も一段と充実してまいりました。

いづれにせよ、広く皆様のご理解とご協力を得ると共に、建築協定をより有効に維持活用し、豊かで潤いのあるまちづくりを推進していきたいものです。まちは、一人一人がつくり育てていくものです。これからも皆さん一緒になって「まちづくり」を考えてまいりましょう。

はなはだ簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。



藤田会長

平成5年度活動予定

平成5年度	4月6日	「建築協定だより」専門委員会
	5月13日	役員会
	5月25日	総会専門委員会
	6月7日	総会専門委員会
	6月21日	役員会
	6月26日	平成5年度総会
	7月中旬	「建築協定だより」専門委員会
	8月上旬	「建築協定だより」専門委員会
	8月下旬	「建築協定だより」第6号発行
	10月上旬	役員会
	11月中旬	他都市見学交流会
	12月下旬	役員会
平成6年	1月下旬	「建築協定だより」専門委員会
	2月上旬	「建築協定だより」専門委員会
	3月上旬	「建築協定だより」第7号発行
	3月下旬	役員会

平成5年度予算

歳入		歳出	
前年度繰越金	62,699	総会費	80,000
補助金	1,000,000	教宣費	705,000
利息	2,000	役員会費	90,000
見学会参加者負担額 (¥2,500×40名)	100,000	見学会費	283,000
		雑費	6,699
計	1,164,699	計	1,164,699



講演会「子供の目から見たまち」

～町が持つ育ての知恵

はじめに

子供の目から見たまちづくりとは、子供を含めて人間が発達するのに「ふさわしい町」とはどういうものか考える事だと思います。次代を担う子供達の健全な発達なくして、世の中や町の発展は無いという観点で、子供の育つ環境を創り出し、見付け出していくための活動や、それを行う主体者の教育はどうなっているかということ、幾つかの事例を通して、一緒に考えてみましょう。



図2 おじぞうさまめぐりマップ(京都・伏見) 都市文化社「子育ての町・伏見」より

ブリューゲルの絵

図1は16世紀の画家ブリューゲルの「子供の遊戯」という作品で、オランダ全盛期のアントワープという町の光景です。かつて、子供達がこの様に自由に遊ぶことができた町は、急激な都市化によって失われてしまったと、告発するものとして描かれました。

この絵から町には、至る所で子供が遊べるような環境が必要であるということや、その地方に伝統的に伝わっている宗教行事や伝承料理、遊び、生活様式など豊かな文化の存在といった、普通の暮らしの中に子供を発達させていく「育ての知恵」を、町が持っていたということ、そして、それは、常に意識していないと、消えていってしまうものだということが分かります。時代と共に町は発展(?)してきました。都市化の進んだ町では、それまで子供達の遊び場であった場所が非常に危険な場所に変わってしまい、「ここでは遊ぶな」と規制され、新しい文化や物がどんどん取り入れられるにつれて、古くからの伝統文化が次々と消し去られていきました。子供達の遊びもその例外ではなかったのです。果たして、今の京都をブリューゲルはどのように描くのでしょうか。

地蔵盆のフィールドワーク

子供の遊びは、遊び場、仲間、時間が揃ってこそ成立します。特に異年齢集団での遊びは、人格形成上重要です。

まちづくりは、子供集団を育てることだとも言えます。

少し前までは、子供を育てる環境や生活は沢山ありました。地蔵盆などは、今も残る「育ての知恵」だと思います。町内ごとの子供集団はその時の無礼講を楽しまずし、大人達も準備や後片付けを通して、コミュニティを育ててきました。図2は、伏見の地蔵盆を調査した時のものです。色々なお地蔵さんや催しが、それぞれの町の個性を語っています。別に地蔵盆を盛んにしようということではありませんが、このような取組みが、子供を健全に育てていたということで、これを現代風に復活させる必要はあるのではないのでしょうか。それにはまず、自らの町を見る目を育てることが大切です。伏見の町を歩き回って、昔の生活には五感が息づいていたということが分かりました。冬になると、どこからともなく酒造りのいい匂いが漂い、早朝には、大八車のガラガラという音。高瀬川の方からは船頭の声が「ホーイ、ホーイ」と、土地のお年寄り話して下さいました。

今の子供達の思い出に残る町の匂いや音は、排ガスやエンジン音しかないとしたら不幸なことです。

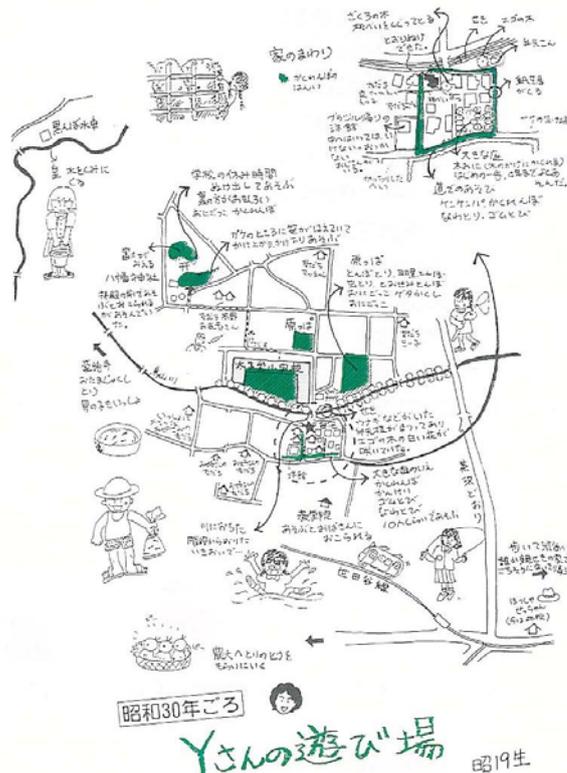


図3 遊び場地図(昭和30年ごろ) 子どもの遊びと街研究会「三世代遊び場調査」より

づくり」

講師紹介

奈良女子大学 家政学部 住居学科卒業
京都大学 建築学教室技官
平安女学院短期大学 住生活専攻助教授

専門は住生活で、子供達が自由に伸び伸びと成長していくための施設の研究から、地域全体を考えた「町づくり」まで、実際に町を歩き回っての調査、観察に基づいた研究を続けておられます。町並みウォッチングのアドバイザーとしても活躍中です。



室崎生子先生



図1 ピーテル・ブリューゲル「子供の遊戯」1950 油彩 ウィーン美術史博物館蔵

まちづくり教育

現在は、積み重ねられた知恵に頼っていた生活と違って、環境も意識的に追及する時代ですが、日本のまちづくり教育は、残念ながら遅れているといえます。欧米では、以前からまちづくり教育が熱心に行われてきました。ここで「シティ・サファリ」という本を紹介します。これは、五感を十分に活用して、身の回りの新発見をしていく訓練を提唱した都市探検のガイドブックで、町は、子供からお年寄りまで、或いは小さな虫から大きな動物まで、そして植物をも含めた全てが役割を持っている、依存し合っているのだということを学べます。常に変化するのが町で、その変化を見つめ、発見をしていくということを単に知識とするだけでなく、町を構成している一人一人が、力を合わせれば、その発展に自ら関与し、改善していけるという確信を育てることにこの本の目的があります。日本でもまちづくり教育というものが近年試みられるようになってきています。

例えば、東京都世田谷区のある地域では、図3、4のような遊び場地図を作るなど、色々と市民や子供の参加するまちづくり活動を自主的に行っておられます。

おわりに

まちをよく見ると沢山の発見があります。意識的に環境を見直す取組みは、大人にも必要なことですし、子供の頃から教育として行う事も極めて大切な事です。子供のためのまちづくりは、大人が全てをやってしまうのではなく、子供が意見を言う機会をつくって、主体者として参加して行くことだろうと思ひ



図4 遊び場地図(現代) 子どもの遊びと街研究会「三世代遊び場図鑑」より

ます。今回の話が皆様方の地域で、何か始めて頂くきっかけになれば幸いです。

まずは子供達と一緒に手短かなところから、遊び感覚で楽しく町を見直しに出掛けてみてはいかがでしょうか。

Q & A

伏見区南大島地区

私たちの町は歴史も浅く、行事も大人が全て運営して、子供達はただ当日参加するだけですが、このままで良いものでしょうか？

室崎助教授

町の歴史は浅くても、見方を変えることによって、発見はいくらでもできるものです。まず始めることです。

地域行事についても大人達のコミュニケーションが確立されているから運営できるのですから、そういうものが保たれていることは、永い目で見れば有意義なことですし、子供達といっても、小学生とは限らないので、中高生への呼び掛けも大切ではないでしょうか。

左京区下鴨第2住宅地区

地域探検のノウハウがあれば教えて頂きたい。

室崎助教授

これといった決まりはないので、とにかく動き出す事が大切です。私も声を掛けて頂ければ、お手伝いいたしますし、手引書的な本も出版されています。やり始めたら面白いものですよ。



見学会お知らせ

日 付
平成5年11月14日(日)

見学地区
北区星和台地区
中央区ハーバーランド地区

集合場所
京都市役所前
(御池通、噴水前)

参加費用
お一人 2,500円
(当日集めます)



今年は神戸に行きます。

神戸市は京都市、横浜市、大阪府と並んで全国でも数少ない、建築協定連絡協議会の組織されている都市の一つです。

現在63ヶ所の協定地区があり、それぞれ独自の取組みをされている地区も多いとのこと。

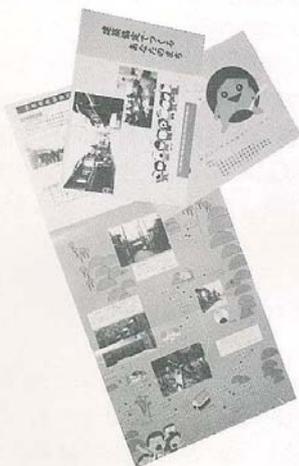
最近ではハーバーランドのような、新しい商業集積地区の計画にも建築協定を活用されています。今回の見学会では住宅地区と商業地区の両方を回る予定です。地区運営の参考に、また地区交流の一環として、秋の1日を過ごしてみたいかがですが、詳しくは運営委員会を通じて、事務局までお問い合わせ下さい。

大阪府建築協定地区連絡協議会

横浜市、京都市、神戸市に続いて大阪府(都道府県レベルでは初)にも建築協定地区連絡協議会が誕生しました。去る3月30日、各地区の共通する諸問題の解決と建築協定に対する知識の普及啓発を行うことを活動方針として発足されました。大阪府には173の協定地区があつて、なかには私たちの地区と同じ課題に取り組まれている地区も多いと思います。これから交流を深めていくことで、互いの地区や協議会を発展させていきたいものです。

パンフレットができました!

私たち、京都市建築協定連絡協議会のパンフレットができました。市内の協定地区や、協議会の活動などがイラストと写真で紹介されています。事務局の他、各区役所にも置いてありますので御希望の方は、区役所へ行っていただくか、事務局まで御連絡ください。差し上げます。



符さんの投稿、寄稿を募集しています。
建築協定にかかわること、
地区エピソードなどお待ちしています。

編集後記

実り、芸術、読書、スポーツ、食欲…いろんな秋がありますが、皆さんの地区には、どんな“秋”が似合うでしょうか。

中秋の興、まちづくりをじっくり考えるにも良い季節です。

コンテスト作品募集

私のまち写真コンテスト作品募集のお知らせ
今年も「まちづくり月間」(建設省主催)の行事の一つとして、私のまち写真コンテストの作品を募集しています。あなたのまちを全国的に紹介できるチャンスかも…

一度応募してみませんか。ご質問などは事務局まで、皆様の応募を待っています。